

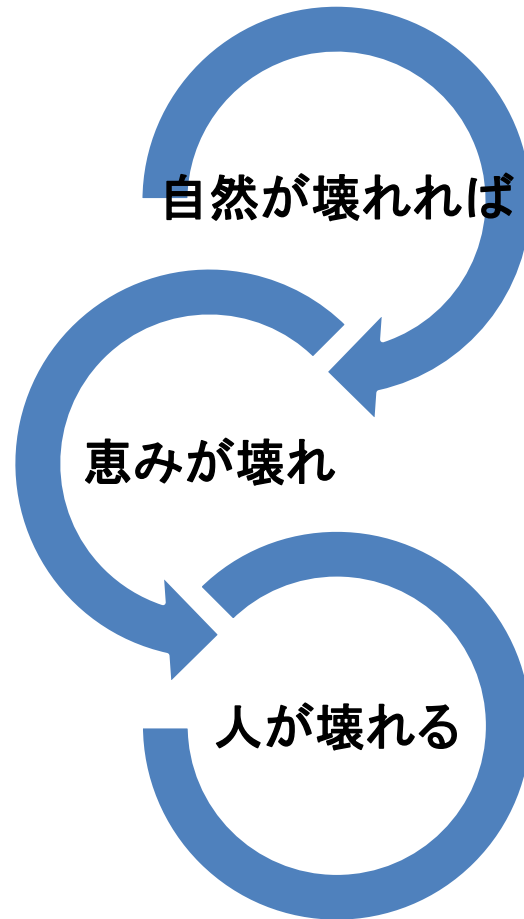
農業と医療の連携で産み出される
新たな健康社会とソーシャルビジネスの可能性

2014年12月18日
農医連携ユニット／ジャーナリスト
後藤典子

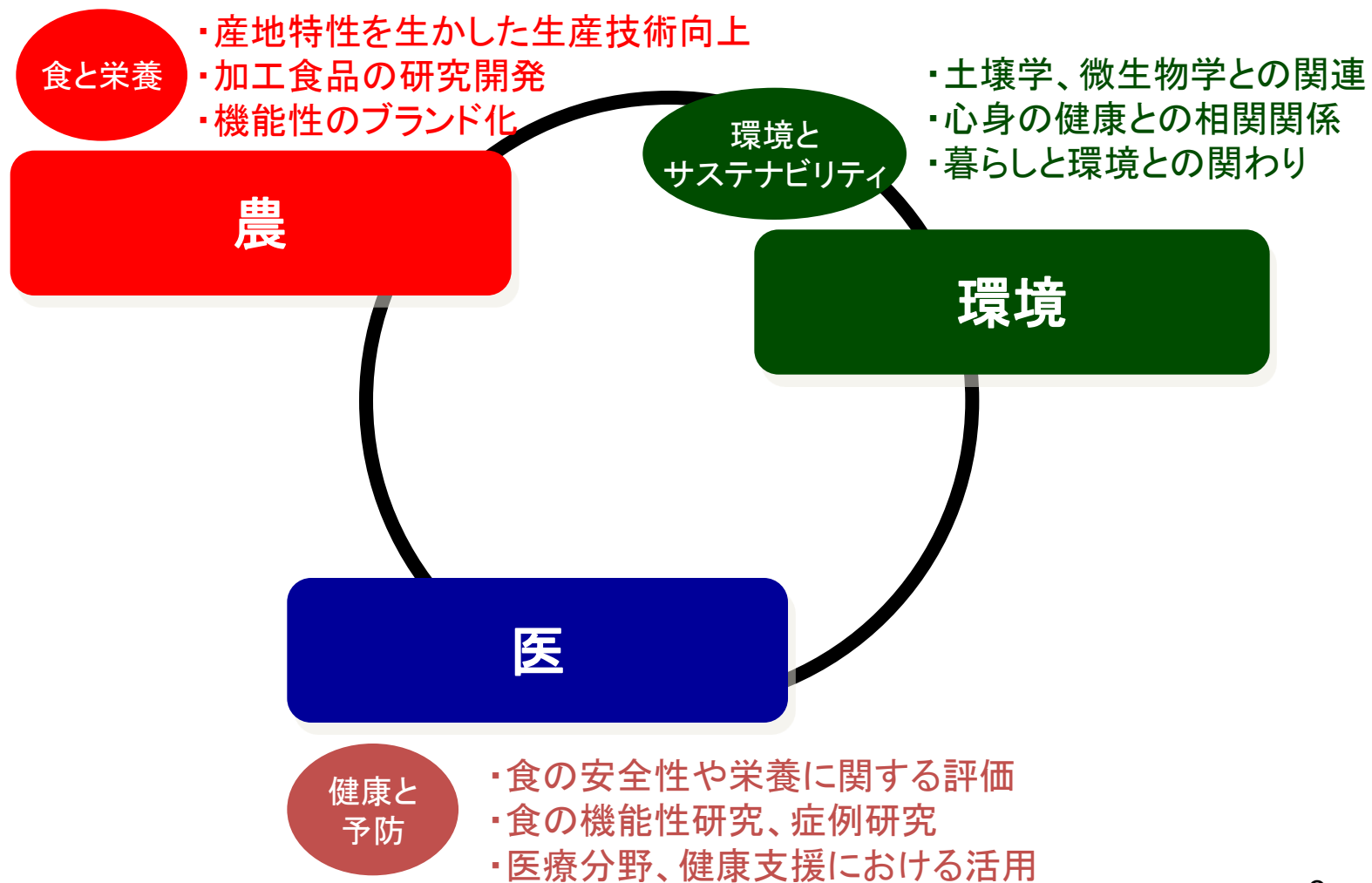
食で守る、食で治す

連鎖とバランス

Chain & Balance



農業と医療と環境の連鎖



私たちの目指すものは、「農業(食)と医療(健康)と環境(暮らし)の連携」です。

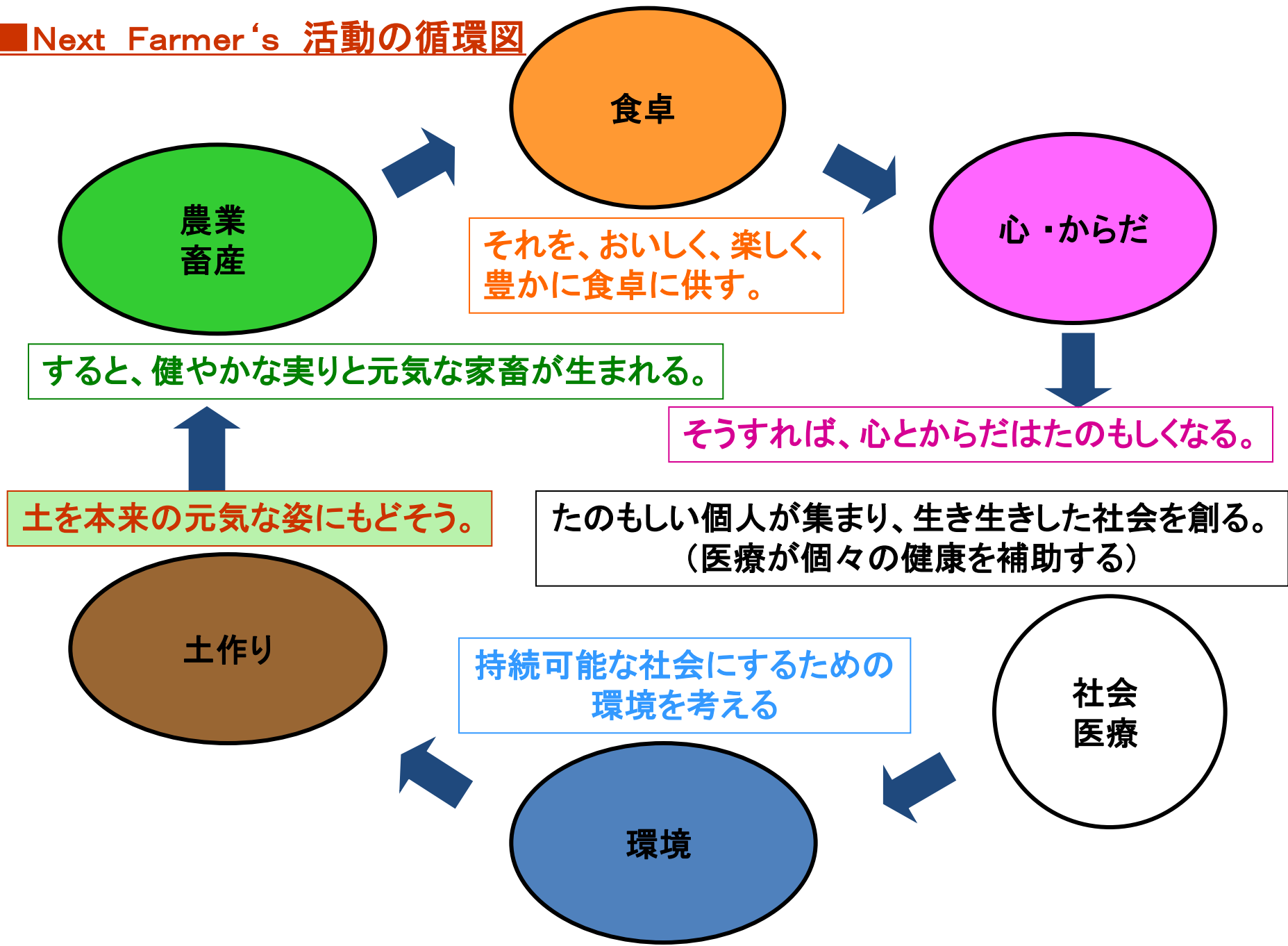
ヒポクラテス:「食べ物について知らない人が、
どうして人の病気について理解できようか」

▲「農医連携」は、これまで分離していた農学
領域と医学領域の智慧を交流し、共有すること
で生み出す「健康」の再構築

▲食品の医療利用の壁 エビデンスの指標

▲それにとらわれることなく、食歴や実証を重
んじ、健康への機能性を検証する

Next Farmer's 活動の循環図



食事で自殺リスク半減

- 野菜や果物、大豆製品などが中心の「健康型」の食事を積極的にしている人は、そうでない人に比べ自殺の危険性が半分に減ることが、国立がん研究センターなどの調査で分かった。
- 分析した国立国際医療研究センターの南里(なんり)明子・栄養疫学研究室長は「食事だけの影響ではないかもしれないが、野菜や果物に多く含まれている葉酸や抗酸化ビタミンは、うつ予防に効果があると報告されており、自殺リスク低下に影響している可能性がある」と指摘している。

(2013年12月26日 読売新聞)

世界に前例のない超高齢社会へ

認知症の「真実」

東田 勉

認知症医療の 「闇」と「希望」を描いた 2014年最大の衝撃作

- 家族や介護従事者が悲鳴をあげるアリセプトの副作用
- 専門医ですら知らないレビー小体型認知症の治療法
- 「魔人になる薬」を説明なしで処方する医者
- 薬に頼らない新しい介護と医療とは？

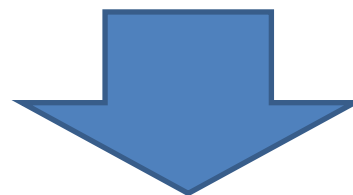
「“認知症”は
国と医者が作り上げた
虚構の病だった！」

三好春樹氏絶賛！

講談社現代新書

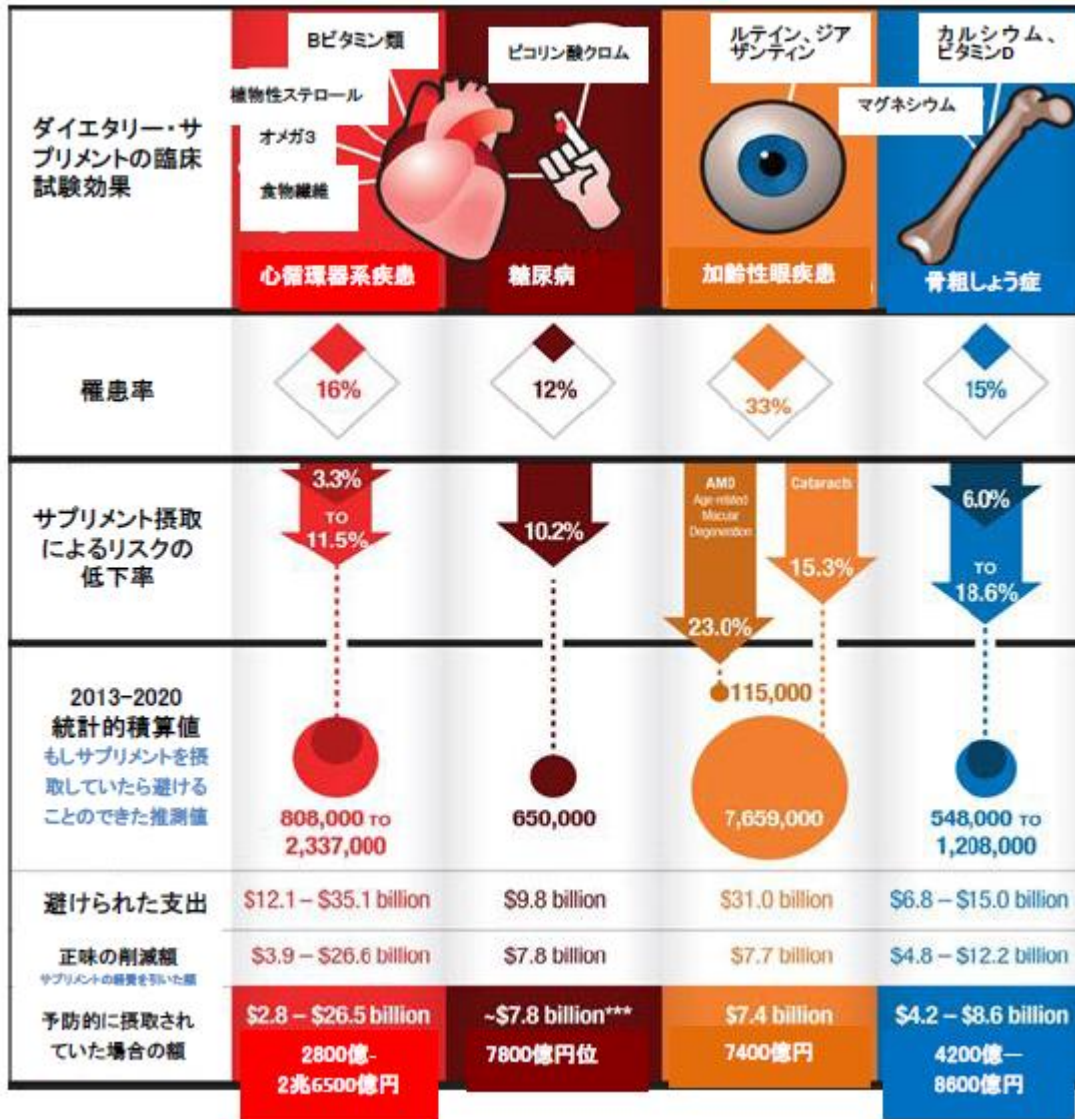
講談社現代新書
50
周年

- 高齢者の薬害問題リポート
- 「早期受診、早期診断、早期治療」の呼びかけ→治るか？
- 最大のリスクファクターは長生きしたこと



高齢社会ゆえに増える疾患
その原因に向き合っているか？

Dietary Supplements for Smart Prevention



米国在住の55歳以上の成人を対象に調査

8種類のサプリメント摂取
4種類の疾患

慢性疾患に伴う入院
高額な医療検査

個人や社会のヘルス
ケアにつながる

(2013 CRN Foundation)

Foods Valley(契約農地)とつながる食卓

メンバー

発起人50名 入会費10,000円(一般会員5,000円)
会費には、プランター・土・改良材・種・苗(年数回)が含まれます。

契約農地

埼玉県



新鮮

安心

美味しい



作ってほしい野菜の作付けを依頼し
定期的に購入する

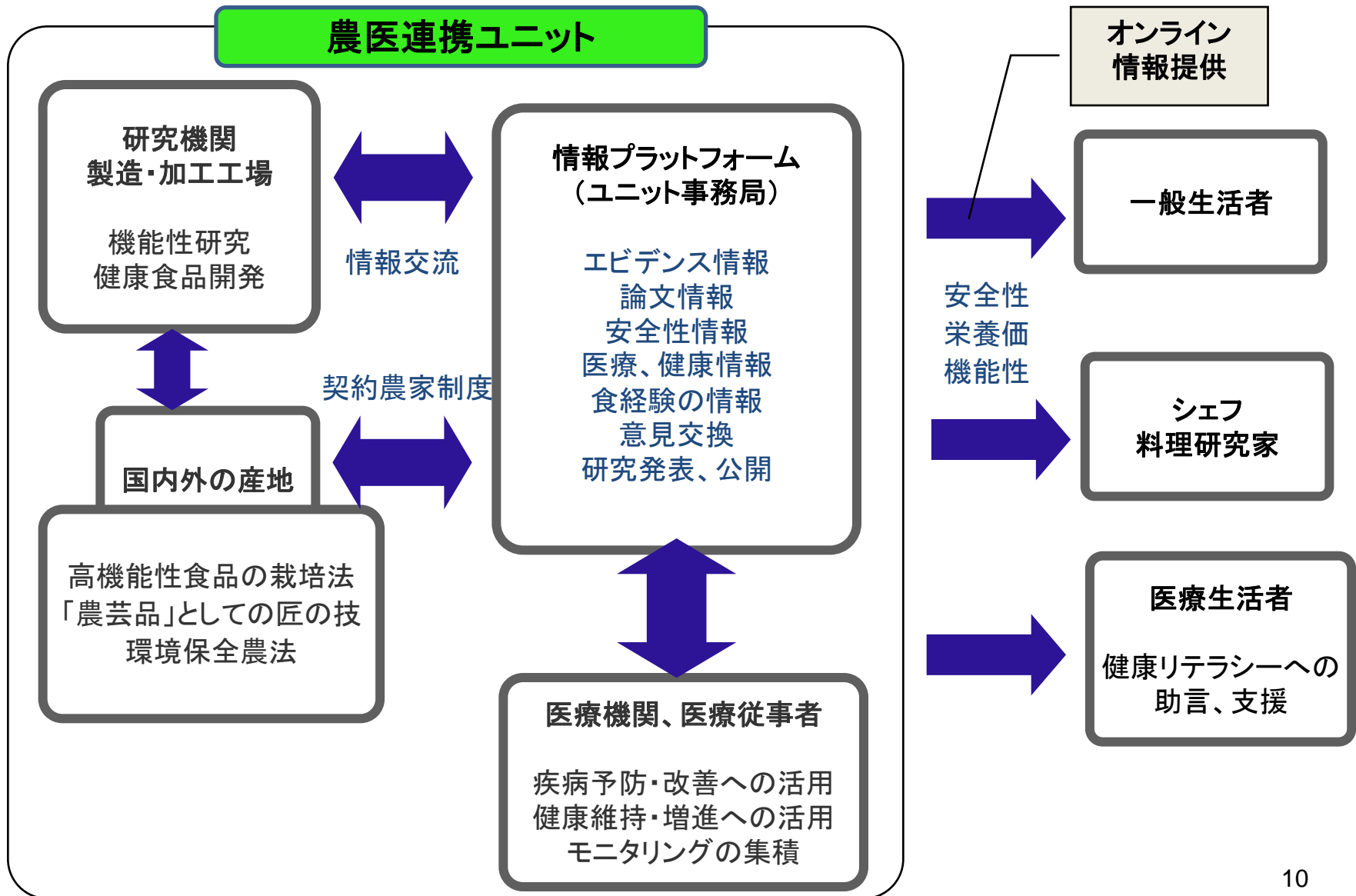
農業体験や見学などの交流を行う

プランターで野菜を育てよう!

入手困難なスペシャル・フーズが
手に入る特典も!



農医連携ユニットの大きな取り組み



未来の命のための礎となる
小さな一歩から

志

使命感